

学年相応の英検(実用英語技能検定)取得で社会で役立つ英語力を

中1生は英検5級、中2生は英検4級、中3生は英検3級、
高1・2生は英検準2級、高2・3生は英検2級の取得を

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：英検の取得は、学校での学習や受験、社会で役に立ちますか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)役に立ちます。学年相応の英検取得は、中学校や高校での英語学習、高校入試や大学入試、大学での勉強、就職活動(就活)、社会に出てからの仕事や社会的活動など、一人ひとりの人生にとってとても役に立ちます。
- (2)我々日本人があまり不自由なく生活できるのは、日本語で読むこと・聞くこと・話すこと・書くこと、日本語でのコミュニケーションができるからです。
- (3)私は以前タイに行ったことがあります、タイ語を学習したことがありませんでしたので、タイ語を話すこと・聞くこと・読むこと・書くことが全くできず、とても不自由な思いをしました。韓国でも、ロシアでも、ベトナムでも、インドネシアでも、ミャンマーでも、そして中国でも同じ思いをしました。ただ、日本語が英語ができる人とはコミュニケーションができました。
- (4)英語は言語の一つに過ぎませんが、世界最大の共通語です。我々日本人の母国語である日本語と同じように、英語が読め・聞き取れ・話せ・書け、英語でコミュニケーションができれば、英語ができる人々との交流が可能となります。
- (5)学校や開倫塾での英語の学習に、英検合格に向けての学習を加えれば、確実に英語の実力が身に付きます。中学校や高校、大学などの学校での英語や他教科の学習にも就職活動にも役に立ちます。仕事や社会活動、日々の生活にも役に立ちます。

Q：英検合格の学年ごとの目安(めやす)、目標を示して下さい。

- A：(1)中学校1年生は全員、英検5級に合格して下さい。ただし、英検5級は中学校1年生の学習をすべて修了したレベルで出題されますので、中1生の内容を学習し終えていなければ確実に合格することはできません。
- (2)いつもお話しているように、「学習」は2つの段階に分かれます。「うんなるほど」とよく「理解」する「学ぶ」段階と、一度「理解」した内容を正確に「定着」させる・身に付ける「習う」段階です。
 - (3)中学校1年生で学習する英語の内容を最後まですべて正確に「理解」し、正確に「定着」してはじめて、英検5級に合格できます。
 - (4)ですから、中学校1年生で来年1月の英検で5級に合格したければ、少なくとも冬休みが終わるまでには中1生の英語の全内容を完全に「学習」しなければ、つまり「理解」し「定着」させなければなりません。

- (5)同時に、過去に出題された問題(過去問)の5年分(英検は1年に3回ありますので、5年なら15回分)を各々5回以上解き、英検に慣れ親しむことが求められます。
- (6)過去問を学習するときには、問題を解き終えたら答え合わせをし、できた・できないで一喜一憂(いきいちゆう)することなく一問一問を丁寧に検討すること、そして、できなかった問題はなぜ間違えたのかを研究することが大事です。また、間違えた問題の前には「目印」を付けておくことがポイントです。
- (7)同じ問題を5回解きますので、テキストや問題集の中に解答を書き込んではいけません。
- (8)英検の問題文や設問の中に意味や読み方(発音の仕方)がよくわからない語句があったら、辞書で意味や読み方を調べ、「単語ノート」に記録しておくことです。この「単語ノート」はいつも持ち歩いて、1ページ目から小さな声を出して読む(音読)練習を繰り返しましょう。
- (9)このようにして、一度「学習」した問題文や設問のすべてを必ず「音読練習」すること。また、書くことが難しそうな語句は、正確に書けるようになるまで書き取り練習をすることが大事です。
- (10)英検の問題文や設問は英語のベテランの先生方が研究を重ねて作成したものですから、問題文も1つ1つの設問も選択肢の文や語句、解説書の内容もすべて、「学習」するに値するものです。「理解」した上で、正確に「定着」させて下さい。

Q：中学校2年生はどうですか。

- A：(1)中学校2年生は全員、英検4級合格を目指して下さい。ただし、4級は中2生の全内容を「学習」していないと、つまり「理解」し「定着」させていないと合格できません。
- (2)冬休みの終わりまでに中2内容を確実に「学習」すること、そのあとは英検4級の5年分(年3回ですので、15回分)の過去問を各々5回ずつ、5級の(6)~(10)の勉強方法で確実にやることです。

Q：中学校3年生はどうですか。

- A：(1)中学校3年生で英検3級を取っていない人は、高校入試の受験勉強だと思って、来年1月の英検で3級合格を果たすことです。
- (2)英検3級は中学校3年生修了程度ですので、中3内容のすべてを正確に「理解」し「定着」させておかないと、合格は難しいといえます。
- (3)高校入試の英語で高得点を取るために、英検3級の勉強は最適です。高校入試突破の勉強だと考え、3級を受検して下さい。中3生で5級・4級を取得していない人の中には、英語があまり得意でない人が多いと思われます。十分に準備したあとに5級・4級を受検し、英語を不得意科目から得意科目にするよききっかけ・チャンスにして下さい。
- (4)学習の仕方は5級と全く同じです。

Q：高校生はどうですか。

- A：(1)英検準2級は高校1年生修了程度、英検2級は高校3年生修了程度です。早め、早めに高1や高3までのすべての内容を終わらせ、5級の(6)~(10)で示した通り学習をすれば、誰でも合格するのが準2級と2級です。
- (2)英検準2級・2級に合格後は、大学入試センター試験の15年分の問題を、5級の(6)~(10)で示した学習方法で5回ずつ確実に行えば、センター試験の英語は180点以上取れると私は確

信しています。2月・3月の各大学の一般入試でも高得点が取れます。医学部の入試はもちろんのこと、東大や慶大、早大入試に対応できます。

(3) 私が今回示した学習方法で英検準2級・2級に合格することは、TOEIC や TOEFL で高得点を取る基礎になります。社会でも役に立ちます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) インドでは低価格私立学校が急激に増加、小学校1年生から全科目を英語で学習する児童・生徒が激増しています。これは、保護者が貧しい中生活費を節約して、自分の子どもに将来よい英語の使い手となり、人生を切り開いてもらいたい、この貧しい生活から脱却させたいとの願いのあらわれであると思います。

(2) 公立学校は英語以外の現地語で授業をしているのですが、この低価格私立学校で学ぶ子どもたちは親の期待に応えるため、また、自分の人生を切り開くために、すべて英語で行う授業に必死にくらいついています。このような人々が中国にも、ベトナムにも、インドネシアにも、また、世界中にたくさん存在します。日本の小学生、中学生、高校生の競争相手はこのような人々であると私は考えます。

(3) 小学生も遠慮は要りません。英検5級、4級、3級、準2級、2級にどんどん挑戦して下さい。英検準2級に合格している小学生は日本にもたくさんいます。自分の未来は自分で切り開く。勉強に遠慮は一切不要です。インドの小学生に負けないで下さいね。

2012年10月17日記 -